

危険業務従事者叙勲

危険性の高い業務に精励した人を顕彰する危険業務従事者叙勲が10月9日付で発表され、本町から元自衛官3人が受章の栄に輝きました。



瑞宝双光章
岩 湊 公 男 さん(長崎・61歳)
防衛 (元2等空尉)

昭和37年、航空自衛隊に入隊。航空警戒管制官として山田、北海道稚内、福島県大滝根を異動。24時間体制で非常事態に陥った航空機の誘導、国籍不明機の不法侵入を監視したり、ニアミスや早期発見したりするのが主な任務。特に印象に残っている勤務地は稚内。「冷戦時代であり、領空の境界付近を頻繁に戦闘機が飛び交い、緊張の連続だった」と振り返る。平成9年退官。受章について「目立った仕事は特にしていないし、正直驚いています」と笑みがこぼれます。

瑞宝单光章
関 教 正 さん(八幡町・61歳)
防衛 (元2等空尉)



大学事務の勤務を経て昭和40年、航空自衛隊に入隊。翌年、山田分屯基地に配属され、需品や電子部品などの在庫管理業務を担当。昭和46年、雫石町上空で自衛隊機と全日空旅客機が衝突した際、災害派遣されたことは忘れられない思い出。後に福島県大滝根、沖縄県与座岳、宮城県松島を異動し、再び山田に戻り補給と輸送、警備業務の監督指導に当たる。平成9年退官。受章について「思ってもいないことで、とても栄誉なことです」とほほ笑みます。



瑞宝单光章
中 垣 修 さん(船越・61歳)
防衛 (元准空尉)

昭和37年、航空自衛隊に入隊。山田分屯基地に配属されて以来35年間、レーダーサイトの有線整備などの業務に従事。空域防衛の裏方として地味な任務に当たってきたのが大きな誇り。沖縄県糸満、北海道奥尻島と回り、最後は再び山田に戻り、平成9年に退官。本土の人間に対し反感が強かった沖縄で、ソフトボールなどで親ほくを深めたことが特に印象に残る。「先輩や同僚に恵まれて、大過なく勤めることができました」と多くの人に支えられての受章を喜びます。

叙位・従五位

故 佐藤善一さんに贈られる

町の発展に大きく貢献



従五位が贈られた 故 佐藤 善一 さん

元山田町長で勲四等旭日小綬章を受けている、故佐藤善一さん(山田・九)に、このほど叙位として、従五位が贈られました。佐藤さんは、昭和十七年六月、町議会議員選挙で初当選。翌年三月、議会の推挙により山田町長に選任されました。終戦後の占領下にあった昭和二十一年三月、GHQにより町長の職を解かれました

が、昭和二十八年、新たな地方自治制度のもとに行われた山田町長選挙で再選。戦後の新たな地方行政のかじ取りを担いました。就任早々から沿岸の強力な自治体の建設を目指し、隣接する船越、織笠、大沢、豊間根の四村に大同団結を呼び掛け、昭和三十年三月に町村合併を実現。新生山田町の初代町長として、本町発展の基礎を築きました。

さらに町の財政再建に取り組み一方、▽生活環境の整備▽社会福祉の充実▽教育環境の整備▽農林水産業の振興——など合併後の町の発展に尽力。特に次代の山田町を担う児童生徒の教育環境の整備を町の重点施策と位置づけ、昭和四十年七月には、生徒の学力の向上と学力格差の解消を目指し、船越、織笠、山田、大沢の各中学校の統合を実現させました。また、昭和四十二年四月から五十四年四月まで、三期十二年間にわたり県議会議員を務めました。この間、農林委員会副委員長や総務委員会などの委員を歴任。本町をはじめ県の発展に大きく貢献しました。

佐藤さんは九月二十七日に死去されました。ここに生前の功績をたたえ、ごめい福をお祈りします。